

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	メディア論		
英文授業科目名	Media Theories		
開講年度	2004年度	開講年次	3年次
開講学期	5学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	専門科目-専門共通科目-選択必修科目		
開講学科・専攻	人間コミュニケーション学科		
担当教官名	原 和之		
居室	西6-207		

公開E-Mail	授業関連Webページ
hara@hc.uec.ac.jp	http://www.h7.dion.ne.jp/~sinkdeep/

【主題および達成目標】
<p>「メディアとその技術的基盤は、人間にとって単なる道具ではなく、そもそも人間のあり方に深い影響を与えている」とする考え方があります。授業では、この考え方がそもそも登場するに至った背景とその展開を概説します。最終的には、こうした考え方に関する文献・資料を広く調査し、自分の問題を立てて、それを一定のフォーマットで論述する仕方を身につけることが目標となります。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
特になし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
英語以外の外国語の初歩的知識および西欧近代の歴史に関する知識がある程度あることが望ましい。

【教科書等】
講義開始時に指示する。

【授業内容とその進め方】

授業は講義一コマ、演習一コマからなります。

講義は以下の順序です。おすすめです。

- 1 コミュニケーション・メディア・リアル ---メディア論の基本構制---
- 2 コミュニケーションの理想とその動揺 ---言語をめぐる転回---
- 3 「弱い」メディア論・「強い」メディア論
- 4 メディア論の原型 ベンヤミンと写真
- 5 断層の標定 マクルーハンのメディア論(1)
- 6 断層の標定 マクルーハンのメディア論(2)
- 7 実現した「モザイク」 ハイパーテキストの系譜
- 8 時間と記憶 メディアとしてのコンピュータ
- 9 リアルの再編 貨幣・言語平行論
- 10 リアルの変質 戦争とメディア
- 11 リアルの基層 「他者の発明」
- 12 共有なきコミュニケーションの方へ
- 13 予備日

演習部分では、メディアに関する文献を読んで、発表や議論を行なう、という形をとります。但し形式は、受講者の人数によって変更される可能性があります。テキストについては初回に指示します。なお、英語の文献を読むこともあるので、初回は必ず英語の辞書を持参すること。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

試験および提出物による。試験ではメディア論にかかわる基本的な知識を、論述形式で問う。提出物は、4000字-5000字のレポートおよび参考文献表。最終的な成績は、試験4割、提出物6割の割合で総合的に判断する。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。質問等は授業の後、あるいは電子メールで受け付ける。

【学生へのメッセージ】

授業の中では、少々固い文章を、考えながら読み解くということ、また一つの現象をさまざまな角度から、さまざまな見方で考えることが必要となってきます。授業では、文献は部分的にしかとりあげることができませんので、これを自分で読むことが必須の作業となると考えてください。大変と思いますが、協力は惜しみません。質問歓迎。

電気通信大学 平成16年度シラバス

【その他】